

Hondaの交通安全情報紙



Since 1971



~ Safety for Everyone ~
Hondaはすべての人の
交通安全を願い活動しています。



●編集室：本田技研工業株式会社 安全運転普及本部内
〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1
TEL 03(5412)1736
http://www.honda.co.jp/safetyinfo/
●編集人：千葉英雄
※年間購読をご希望の方は、下記までお問合わせください。
(株)アストクリエイティブ 安全運転普及本部係
TEL 03 (5439) 1191 E-mail:sj-mail@spirit.honda.co.jp

SJ ホームページは

CONTENTS

- 特集：交通安全教育の最前線で活躍する指導者
交通参加者を事故から守るために……①
- 教育最前線／鈴鹿市立深伊沢保育所・自転車教室……④
- 現場訪問／社会福祉法人リアルライトホーム……⑤
- TOPICS／実際に起きた事故事例から学ぶ自転車利用のルール……⑤
- NEWS REVIEW ①／「感情コントロール教育プログラム」実施マニュアル
NEWS REVIEW ②／書籍「交通安全教育の意義と役割」……⑤
- STREAM／高校におけるこれからの交通安全教育 第1回……⑥
- 危険予測トレーニング (KYT)／信号機のある交差点の横断 (自転車)……⑦
- 指導者ファイル／桑原洋子さん……⑦
- SJ クイズ……⑦
- DOCUMENT EYE ④
自転車利用者の通行状況を観察する……⑧

この度の東日本大震災におきまして、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。
一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

特集：交通安全教育の最前線で活躍する指導者 交通参加者を事故から守るために



「東海・近畿・中国地区 第1回交通指導員情報交換会」の冒頭では主催者を代表して、千葉英雄・本田技研工業（株）安全運転普及本部事務局長が参加者に挨拶を行った

全国各地で開催されている交通安全教室等で、幅広い人々に啓発活動を実践しているのが、交通指導員である。地域の子もたちや高齢者など、主に運転免許を持たない人々への交通安全教育を担う存在といえる。今回は各地の交通指導員の方々に、どのような意識で日々の活動に取り組んでいるか、どのような問題を感じているか、うかがった。



鈴鹿市交通安全教育指導員が日頃、子どもや高齢者に実践している交通安全指導に参加者に披露

3月9日、鈴鹿サーキット（三重県鈴鹿市）で「東海・近畿・中国地区 平成22年度交通安全普及活動報告会」が開催され、その中で同地区の「第1回交通指導員情報交換会」が行われた。これは本田技研工業（株）安全運転普及本部鈴鹿普及ブロック（以下、鈴鹿普及ブロック）が主催したもので、各地域の交通安全担当者や指導員の間での情報共有を図ることを目的としている。「情報交換会」には三重県、滋賀県、



参加した交通安全担当者や指導員など関係者が交流を深めた

兵庫県、岡山県の自治体の交通安全担当者や交通指導員30名が参加。鈴鹿市交通安全指導員の近藤麻里さんと中村美穂子さんが子どもや高齢者を対象にした指導ノウハウを披露するなど、教育現場での事例も紹介された。今回、「情報交換会」に参加した自治体のうち、三重県鈴鹿市、同四日市市、岡山県倉敷市の指導員の方々に、活動内容や指導ノウハウ、活動における問題意識などに

「あやとり」による対話形式の指導を展開

鈴鹿市では、近藤さんと中村さんを含め7名の交通安全指導員（以下、指導員）が活動し、幼児、小・中・高校生、高齢者を対象にした交通安全教室を年間210回（平成22年度）実施している。同市生活安全部防災安全課副参事の白井和則さんによると、市と指導員だけでなく、警察などの関係機関・団体、民間企業であるホンダが一体となって交通安全教育に取り組んでいることが、鈴鹿市の特徴だという。

指導員になって今年で12年目を迎える近藤さんは指導を始めた当初、子ども向けの交通安全教室は、腹話術による講話やビデオ上映だけの一方通行な内容だったと振り返る。参加する子どもたちが受け身の状態のままでは、交通安全に必要な知識や行動が身につかないと感じていたそう。

「当時、私たちはこのやり方を変えたいと考え、鈴鹿普及ブロックに相談しました。そして、交通安全教育プログラム『あやとり』（3面参照）を導入したのです。対話形式による指導によって、子どもたちが受け身にならない、参加体験型の交通安全教室ができるようになりました。それまでのやり方を変える大きな転機になったといえるでしょう」。以来、鈴鹿市では「あやとり」を使った交通安全指導が定着している。

また、自転車教育でも、近藤さんら指導員が鈴鹿普及ブロックのインストラクターから自転車の正しい乗り方を学んだことがたいへん役に立っていて、鈴鹿市における自転車教育のベースになっているという。鈴鹿市の小学校では自転車の実技指導を行っている。その時に、ボランティアで指導員をサポートしているのが、ホンダの定年退職者の有志で組織している「あやとり同好会」だ。「同好会のメンバーの皆さんから、子ども一人ひとりに、丁寧に指導していただけます。私たちにあって同好会の存在は、たいへん心強いです」と、近藤さんは話す。

幼児から高齢者まで幅広い交通安全教

ついて話をうかがった。

育では、それぞれの世代に対応した指導が求められる。近藤さんが老人会など高齢者向けの交通安全教室で心がけていることは、「楽しい」という印象を参加者に残すようにすることである。学校の場合一度実施して、年間行事に組み込んでもらえれば継続できるが、老人会の場合は楽しくなければ、次の年から呼んでももらえないことがある。話だけでは退屈してしまうので、寸劇を演じたり、手遊びや体操など高齢者に身体を動かしてもらい、一緒に参加できるようにメニューを取り入れるなど工夫をしている。「高齢者から見たら、私たちはまだまだ若輩者。話をする時は上からものを言っていると受け取られないように『気をつけましょう』と言う前に『私も気をつけますから』という一言を添えています」。

参加者に当事者意識を持ってもらうために

幼稚園・保育園での交通安全教室では、幼児だけでなく後で見学している保護者を参加させることが大切だというのは、指導員の中村さんだ。子どもだけでなく、「クルマを運転している時、信号が黄色になつたら、どうしていますか?」といった質問を保護者にも投げかける。「こうすることで、大人が交通ルールを再確認してもらえるきっかけにもなります。また、子どもたちが幼稚園・保育園の周辺の道路を歩く園外実習では、歩く場所や道路を横断する時の注意点を、あらかじめ保護者に伝えておいて、保護者から子どもたちにアドバイスしてもらいます」。保護者も当事者として参加してほしいという考えからだ。これは、中・高校生を対象にした自転車の実技指導でも同様だと中村さんはいう。校庭で練習する時は、コースのチェックポイントに生徒を立てさせて、生徒同士で教え合うような環境をつくるようにしている。

「中・高校生の中には、大人の言われた通りにやるのが『格好悪い』と思ってしまう生徒が少なくありません。そういう生徒は、私たちの言うことを聞こうとは思いません。ただし、友人の言うことには耳を傾け、やってみようとしています。この年代には、人に『やらされている』のではなく、自分たちが

「やっている」という実感を持たせることがポイントです。教える立場を経験することで、より理解が深まり、指導員が直接指導するよりも効果があると感じています」。こうした鈴鹿市の参加体験を重視した交通安全教育の原点には「命の大切さを自覚する」ということが刻まれている。指導員をサポートする臼井さんは、「交通安全は空気のようなもので、普通に生活している中では、その存在を意識することはありません。しかし、交通事故に遭ったら、そこで命を失うかもしれない。何も起きていない時にこそ、いつ巻き込まれるかわからない交通事故に、私たち一人ひとりが備えておく必要があります」と話す。

鈴鹿市にも、いくつか課題があると、近藤さんと中村さんは感じている。老人会など地域のコミュニティに属していない高齢者へのアプローチだ。「こうした高齢者は、これから増えていくでしょう。今後は市役所にも協力していただいて、老人ホームやデイサービスセンターなどの福祉施設で出前講習ができればいいと考えています」と近藤さん。中村さんは、「小・中・高校では、学校あるいは担当の先生によって、交通安全教育に対する温度差があるため、指導内容にもバラツキがあるのも事実です。もっと、学校と私たちが連携を密にできれば、よりきめ細かい指導を継続的に実施することができると思います」という。



鈴鹿市交通安全教育指導員の近藤麻里さん(左)と中村美穂子さん(右)

市民への交通安全教育を担う「とみまつ隊」

四日市市では現在、7名の交通安全教育指導員(以下、指導員)が活動している。交通安全を担当する都市整備部道路管理課課長補佐の中森政隆さんは、「平成20年4月から、この7名を『とみまつ隊』と命名し、活動の強化を図っています。『とみまつ』は『とまる・みる・まつ』に由来しています」という。この「とみまつ隊」は、幼児、小・中・高校生、高齢者を対象にした交通安全教室を年間210回(平成22年度)行っている。

四日市市の交通安全の指導内容は、鈴鹿市と同様に、鈴鹿普及ブロックから提供された「あやとりい」などの教育プログラムの基本になっている。また、主に小学生や高齢者を対象とした自転車教室で活躍しているのが、平成22年度から導入されたホンダ自転車シミュレーター(3面参照)である。指導員の有竹幸子さんは、限られた時間の中で実技に近い指導が可能になったと評価する。「鈴鹿普及ブロックからは、自転車シミュレーターによる指導ノウハウを提供していただきました。教材を渡すだけでなく、それを私たち自身が使いこなせるようにサポートするというホンダの取り組みは、たいへんありがたいと思っています」。

日本人だけでなく、ブラジル人への教育も展開

約3000人のブラジル人が生活している四日市市では、日本人だけでなく、ブラジル人学校に通う幼児・児童・生徒への交通安全教育にも力を入れている。その担当である指導員の宮西マリアさんは、日本には多くの外国人が暮らしているにもかかわらず、外国人向けの交通安全教育が十分ではないという。「基本的な交通ルールを知らないのは子どもだけでなく、大人も同じです。外国人の場合は、交通安全への興味がある、ない以前に、交通安全に関する情報が届かないのが現状です。私は、こうしたギャップを少しでも埋めていきたいと考えて取り組んでいます」。

ブラジル人の高校生は日本の法律に対する興味・関心が高く、法律に違反しないようにしたいという意識が強いと、宮西さんは感じている。「指導していると、必ず法律でどのように規定されているか知りたがります。そうしたニーズがあったので、まず自転車に関する道路交通法の規定をポルトガル語に翻訳した資料を作成し、ブラジル人の高校生に配布しました。皆さんから『こんなルールがあることを今まで知らなかった』と大きな反響がありました。さらに、なぜそのような交通ルールがあるのか、その理由をポルトガル語で説明しています。パワーポイントで作成したブラジル人向けの教材には、日本語とそのポルトガル語訳を併記している。「交通安全に関する日本語を覚えられよう」という配慮である。

活動を続ける中での課題として、指導員の大津ひろ子さんは市民の交通安全に対する意識の低さを挙げる。「街頭で啓発用のチラシを配布していると、付録のグッズだけ取って、読んでほしいチラシは捨てられるという光景を何度も目にします。私たちが行っている交通安全教室などを通じて、子どもの頃から意識を高めてもらえるように努力していきたい」と語る。有竹さんも、幼稚園・保育園で親子を対象にした交通安全教室では、真剣に話を



四日市市交通安全教育指導員7名で構成する「とみまつ隊」。写真前列左から、大津ひろ子さん、有竹幸子さん、宮西マリアさん。写真後列左から、武藤まゆみさん、羽木晶代さん、杉本将典さん、岩田康子さん



聞こうとしない保護者が増えたと感じている。「保護者、そして幼稚園・保育園の先生方の役割は、とても重要です。私たちが交通安全教室で子どもたちに指導できるのは年に1、2回ですから、幼稚園・保育園や家庭で継続していただかないと、子どもたちに安全行動が身につくまでです。子どもに対してのアプローチも重要ですが、子どもの周囲にいる大人をいかに巻き込んでいけるかが大きなテーマです」。

「幼児交通安全クラブ」を通過した親子への啓発活動

倉敷市が幼児、小・中・高校生、高齢者を対象に開催している交通安全教室は年間768回(平成22年度)。活動の中心になっているのは11名の交通指導員(以下、指導員)である。市民生活部生活安全課交

特集：交通安全教育の最前線で活躍する指導者



倉敷市交通指導員。写真左から、三宅万里さん、片谷ひろみさん、高橋由美子さん、合木弘美さん、村上訓子さん

交通安全係係長の成田裕次さんは、「当市では公立の幼稚園を中心に『幼児交通安全クラブ』を設けています。これは、親子で交通安全を学ぶことを目的とした授業で各園の年間行事に組み込まれています。指導員が各園を訪問して『あやとりい ひよこ編』を活用した教育活動を行っています」と話す。

指導員の合木弘美さんは、「あやとりい ひよこ編」は、子どもたちが参加しながら楽しく学べる内容になっているので役立っています。昨年、紙芝居サイズから大型ワークショップになったので、使い勝手が良くなりました」と話す。その一方で、子どもと一緒に参加している保護者の授業に臨む姿勢が気になっているという。「どのようにして保護者に関心を持ってもらうかが、幼児への交通安全教育の課題です。『交通安全の話はもうわかっているから、自分たちは関係ない』と思っている方は少なくありません。指導する時は、できるだけ後ろで見ている保護者にも質問を投げかけるなど、保護者とも対話できるようにしています。最後には、必ず家庭で繰り返し教えるだけでなく、子どもも保護者からお願いしています。今、子どもの保護者からの要望が多いのは、自転車の正しい乗り方の指導である。

倉敷市では自転車教育にも力を入れており、現在は小学4年生以上を対象に実技指導を行っている。指導員の村上訓子さんは、最近小学校入学前から自転車に乗り始める子どもが多いため、小学校低学年から実技指導を始める必要性を感じている。「悪い習慣が身につけてしまう前に正しい乗り方を教えるのが効果的です」。しかし、実際には課題もあるようだ。「4年生以上であれば、家から自転車を押し歩きして登校してもらえますが、低学年では保護者に持ってきていただく必要があつて、保護者に負担をかけることとなります。実際に小学校にお願ひして、低学年向けに実技指導を行ったこともありますが、広がりにくくは難しい面があります」。

交通安全は命を守ること

倉敷市の指導員の方々も、他の地域と同じく、参加者にわかりやすく伝えるためのさまざまな工夫を試みている。高齢者の交通安全教室では、その地域

で撮影した交通場面の写真をスクリーンに映し出して、どこに危険があるか考えてもらうという、簡単なKYTを行っている。村上さんは、「参加している高齢者が歩行者、自転車利用者、ドライバーなど、どの立場でも考えることができ、活発に発言してもらえます」と効果を語る。合木さんは、高齢者が指導員に対し、いかに親しみを持ってもらうかが重要だという。そこで、自分たち指導員が高齢者に扮して寸劇を行っている。この寸劇では、斜め横断など高齢者が犯しがちな危険行動を実演している。「私たちの悪い例を見ることで、自分自身の行動を客観的に振り返ることができるのではないかと思います」。子どもにとって難しい用語でもわかりやすく伝えたいというのは、指導員の片谷ひろみさん。例えば、内輪差。小学校低学年にはイメージするのが難しいため、簡単な模擬実験をってもらう。学校の校庭などを利用して、交差点の角を想定した場所を設け、そこに水を入れた大きめのペットボトルを3本並べる。その角を指導員の運転するクルマが左折し、クルマの後輪がペットボトルをつぶしてしまう様子を子どもたちに見せるというのだ。クルマの後輪と地面に挟まったペットボトルを指して、ク

ルマの内輪差の怖さを説明している。さらに、片谷さんが心がけているのは、その交通ルールが何のために存在しているのか、守らないとどのような危険があるのかを、きちんと説明できるようにしておくこと。「指導する自分が、そうした根本的なことを理解していないと、子どもや保護者に真剣に聞いてもらえないのではないかと思います。保護者の多くは、子どもの夢を叶えることには一生懸命ですが、自分の子供が交通事故で亡くなるという心配はしていないでしょう。夢を叶えるには、命があつてこそ。そのために、交通安全が子どもの命を守ることに訴えていきたい」。合木さんもまた、「交通安全は人の命にかかわる問題であるという奥深さも感じました。私たちがいい加減な気持ちでは、絶対に相手に真意を汲み取ってもらえないと考えています」と、伝える側の心構えを大切にしている。

全国各地の指導員との情報共有の場が望まれる

鈴鹿サーキットでの「情報交換会」は参加した指導員にとって印象に残るものだったようだ。四日市市の有竹さんは「他の

地域の指導員の活動内容を知り、同じような悩みや苦労を抱えていることもわかって、とてもいい刺激を受けました」。倉敷市の合木さんは「鈴鹿市の指導員の方々のデモンストレーションは参考になりました。より多くの指導員の実演が見られる機会をつくってもらえると、うれしい」という。鈴鹿市の近藤さんも、「全国には同じ志を持っている指導員が大勢いると思います。将来、そうした全国各地の指導員ノウハウを共有することができれば、お互いの良いところを取り入れ合うことができ、指導力をさらに高めることができるはず」と、全国の指導員が交流できる場や仕組みを期待している。

「あやとりい」シリーズ

「あやとりい」は、1993年にHondaが三重県鈴鹿市と協力して開発した交通安全教育プログラム。以下のように、各年代に応じたプログラムが用意されている。

●あやとりい ひよこ編 (幼児～小学校低学年対象)

イラストやクイズを通して、交通行動の基本やマナーを楽しみながら学ぶことができる。



●あやとりい

(小学3～4年生対象)

小学校の授業を想定したプログラム。日常生活を題材に、交通安全を自分自身で考え、気づく能力を養う。



●あやとりい 子ども自転車トレーニングマニュアル

(幼児～小学校高学年対象)

実際に自転車に乗って安全意識を育てる体験型プログラム。安全を楽しく身につけることができる。



●あやとりい 長寿編

高齢者対象の歩行者、自転車用の少人数制プログラム。自身の交通行動を振り返り交通安全に対する気づきを促す。



※詳細は以下ホームページを参照。

<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/kyt/ayatorii/>

Honda 自転車シミュレーター



自転車利用者のマナーや危険予測能力を高めることを目的に、Hondaが開発した体験型教育機器。

※詳細は以下ホームページを参照。

<http://www.honda.co.jp/simulator/bicycle/>

「あやとりい」シリーズなど、Hondaの教育プログラムの活用をご希望の自治体、警察、団体の方は最寄りの地区普及ブロックにご相談ください。

- ＜お問合せ先＞ 栃木普及ブロック (栃木県真岡市) TEL: 0285-84-7114
- 埼玉普及ブロック (埼玉県狭山市) TEL: 04-2955-5323
- 浜松普及ブロック (静岡県浜松市) TEL: 053-439-2316
- 鈴鹿普及ブロック (三重県鈴鹿市) TEL: 059-370-1553
- 熊本普及ブロック (熊本県大津町) TEL: 096-293-3206